

開催日時：2003 年 6 月 10 日（火） 13：30～16：40

場 所：大津プリンスホテル 2 階 コンベンションホール「淡海 7」

参加者数：委員 14 名、河川管理者 12 名、一般傍聴者 92 名

1 決定事項

- ・原案に対する部会としての意見とりまとめについては、作業部会を設置し、リーダーを中村委員とする。進め方等については中村委員に一任し、必要な場合には委員間での検討会を開催する（部会後に行われた中村リーダーを中心とする委員の打合せにて、全委員が 3 つの検討班に分かれて検討を進めることが決まった）。
- ・部会委員の有志が 5/25 に開催した一般意見聴取試行の会に続いて企画している試行の会（資料 2-2 参照）は、部会が認める会として開催する方向で進める。
- ・次回部会は 7 月 9 日（水）13:30～16:00 に開催する。予定していた 6 月 26 日（木）は、部会としては開催せず、必要に応じて検討会を開催する。

2 審議の概要

委員会、他部会の状況報告

資料 1「委員会および各部会の状況（提言とりまとめ以降）」をもとに報告が行われた。

5/25 に開催された琵琶湖部会一般意見聴取試行の会の報告

資料 2-1「琵琶湖部会一般意見聴取試行の会（5/25）の報告」をもとに報告が行われ、参加した委員から「若者討論会という初めての試みであったが、新鮮な意見が聞けて参考になった」「広報が不十分だったため参加者が学生を中心に都市部の若者に偏り、反対意見があまり出ない身内の会の感があったことが反省点」「今後は都市部、ダム建設の地元、ダムの水を利用する下流域等から参加者が集まる討論会を開くべきである」等の意見が出た。

「説明資料（第 1 稿）」「具体的な整備内容シート（第 1 稿）」および「4/21 および 5/16 委員会でのダムに関する説明資料」に関する意見交換

資料 3-1「淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料（第 1 稿）（庶務による琵琶湖部会関連箇所へのマーク入り）」、資料 3-2「今後の琵琶湖部会における検討について」、資料 3-4「説明資料（第 1 稿）および具体的な整備内容シート（第 1 稿）の琵琶湖部会に関連する部分についての具体的な意見、提案等」をもとに、意見交換が行われた。

< 主な意見 >

審議の進め方について

- ・提言と整備計画との全体的な整合性についての検討と、各項目別の具体的な議論とを平行して行うべきである / 時間的制約を考えると、具体的議論を優先させるべきである等
- ダムについて
- ・ダム建設（公共事業）の目的を変更する場合そのプロセスおよび社会的合意の再形成のあ

り方について議論が必要 / ダムが与えるマイナス面の影響も含め、全体的でより科学的、長期的な影響を検討・提示すべき / ダム建設の目的が利水から環境保全に変わるのであれば、国土交通省だけではなく、各省庁横断型で検討すべきではないか等

今後の進め方について

< 一般意見聴取試行の会の開催 >

部会委員有志より、資料 2-2 をもとに次回の一般意見聴取試行の会の開催について提案があり、「1 決定事項」の通り決定した。

< 琵琶湖部会意見のとりまとめ >

部長より提案があり、「1 決定事項」の通り決定した。なお、作業部会の主な役割としては、以下の内容が確認された。

- ・提言や部会での議論をもとに原案に対する琵琶湖部会としての意見をまとめ、部会に提示する。
- ・意見が分かれているものについては、論点等を示して部会での議論を促す。

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者 2 名から、「委員会に寄せられたダム建設に賛成する趣旨の一般からのご意見について補足説明を求める委員の発言があったが、意見を送った本人は、姉川河口で漁業を営んでおり、ダム建設による流量の回復に期待していると聞いている」「資料 3-3 の P4 で、『自然が自然を、川が川をつくる理念を具体化していくための指標をつくるべき』とあるが、この評価基準等を議論し、委員会として統一見解を出すべき」等の発言があった。

以上

このお知らせは委員の皆様にご覧いただき、会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。